

報道発表資料  
平成20年9月29日  
気象庁

## 東海・東南海沖に新たに整備した 「ケーブル式常時海底地震観測システム」のデータ運用開始

気象庁は、東海地震・東南海地震の想定震源域における地震活動の詳細把握、緊急地震速報での地震発生早期検知・地震動予測精度向上等を目的として、平成16年度から海洋調査を含めて5カ年計画で新たなケーブル式常時海底地震観測システムの整備を行ってきました。

今年7月末にシステムの動作確認を終え、8月1日には本庁へのデータ伝送を開始し、引き続き、センサー設置の安定状態確認のためのデータモニターを実施してきました。

この度、観測データの点検を終え、震源決定精度向上や検知能力向上の見通しが得られた（別紙1及び別紙2参照）ことから、当該システムの地震データの利用が可能となりました。

このことから地震監視業務での運用を10月1日から開始します。また、パラメータの調整等を行い、緊急地震速報での利用に向けた準備を進めます。

本件に関する問い合わせ先

気象庁地震火山部地震予知情報課 電話 03-3212-8341（内線 4562）

検知能力の向上

2008 08 01 00:00 - 2008 09 17 24:00

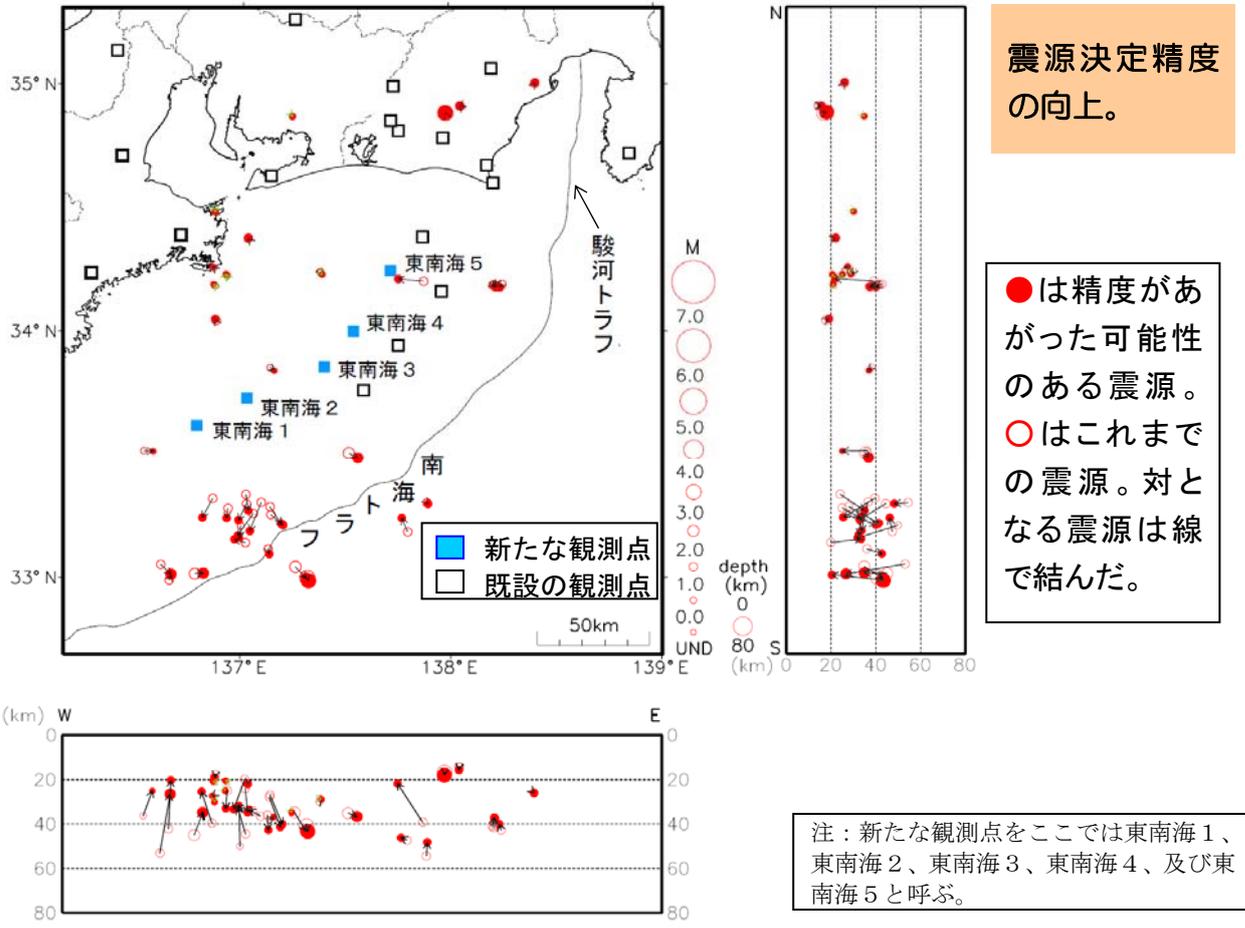


図1 これまでの震源と東南海 OBS の検測値を震源計算に使用した震源

2008 09 01 00:00 - 2008 09 17 24:00

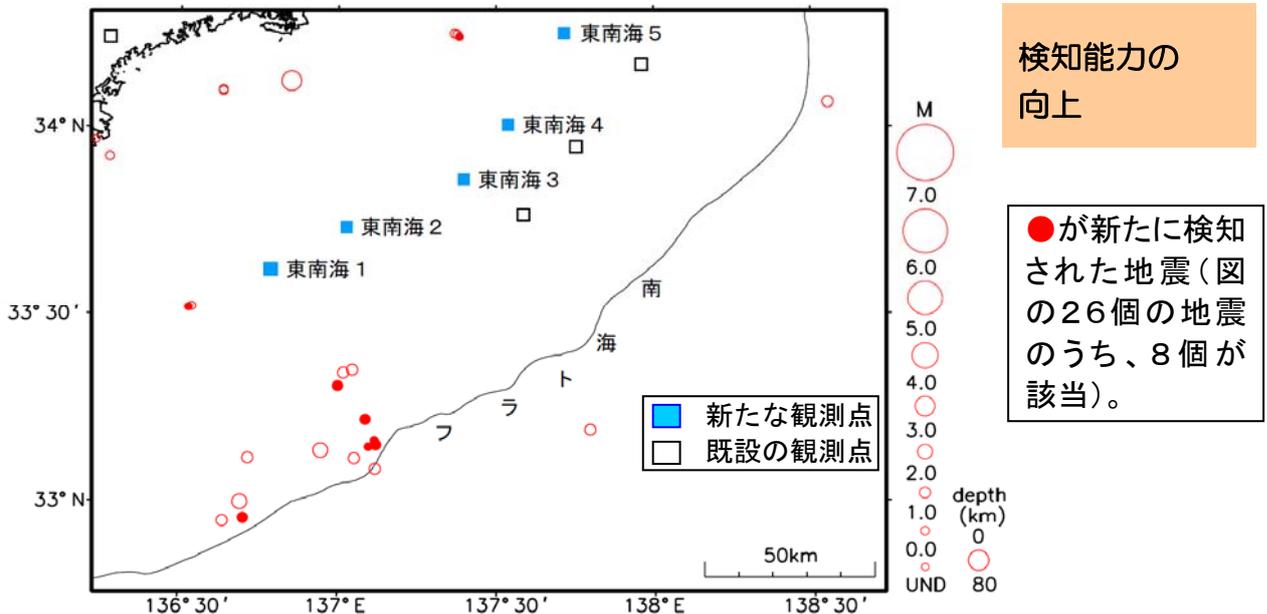
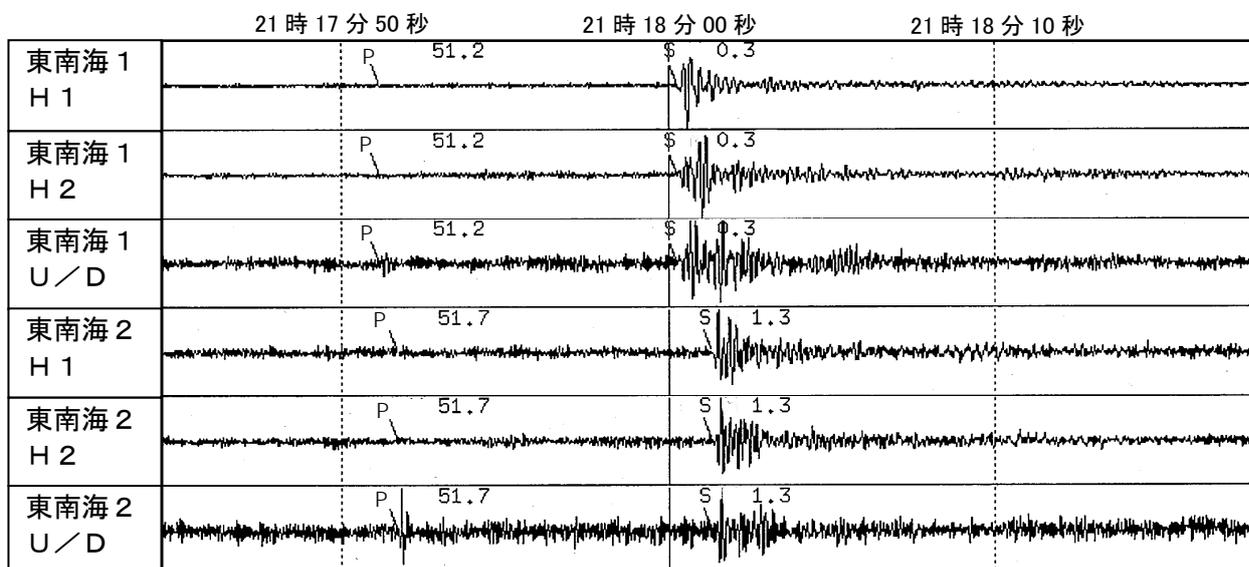


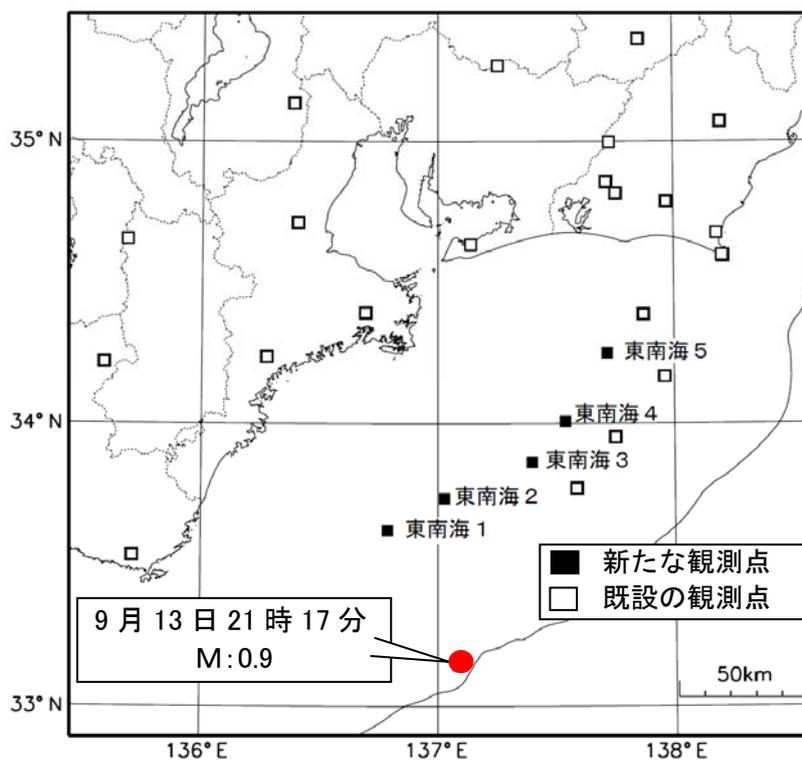
図2 2008年9月の東南海 OBS 周辺の震央分布図

観測された地震波形



H1: 水平動(筐体の長軸方向)、H2: 水平動(筐体の短軸方向)、 U/D: 上下動

上の地震の震央



東南海1, 2の海底地震計があることによって検知された地震